

平成23年6月3日



校長 だ よ り

「社会参加」ということ

「社会」という言葉は、明治時代になって英語の Society (ソサィティ) の訳語として作られたそうです。

人間の共同生活の総称。広くは、人間の集団としての営みや組織的な営みをいいます。

小学部、中学部の教室やプレールームにトランポリンが置いてあります。

トランポリンの効用はたくさんありますが、発達初期にあげることができる目的の一つに、“自分の身体の中心を知る”ということがあります。ジャンプを繰り返しているうちに、子どもは無意識のうちに自分の身体の中心を知り、他人の存在をなお強く意識していきます。この中心が確立以前には、人との距離感がつかめず、こわくて突き離したりすることがありますが、身体の中心ができてくると姿勢が良くなり、複数の友達と楽しくジャンプすることができるようになってきます。

トランポリンでの遊びは、「社会参加」を学習する一環でもあるのです。

「社会参加」の学習は、人同士がうまくつきあっていくためのあらゆることが関係してきます。

「社会参加」の例をあげるときりはありませんが、次のようなことをまず意識していると良いと思います。

- Ⅰ 人を意識する、関わる
- Ⅰ 複数の人と関わる
- Ⅰ 何かをしてみたいという気持ちになる
- Ⅰ 進んで役割をはたす
- Ⅰ 地域活動に参加する
- Ⅰ レクリエーション
- Ⅰ サークル活動
- Ⅰ 就労

「社会参加」の力も、すべての教育活動を通じて育てていきます。

校長 木本 陽一